



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2013年 No.5

(通巻31号)

12月1日発行

2013年もあとひと月を残すのみとなりました。

本年は、特に前半が、よこはま国際協力賞受賞、TICAD5とそれに伴う多くのイベント、セネガル訪問とあわただしかったためか、時の経つのが例年よりも速かったように感じます。

本年最後のニュースレターは、秋の活動報告を中心にお送りいたします。

運営委員一同、この一年のご支援に深く感謝申し上げますとともに、来年度も、一層のご理解、ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

★★★ 『よこはま国際フェスタ2013』 <http://yokohama-c-forum.org> 出展 ★★★

日時：2013年10月19日（土）20日（日）10:30～16:00 場所：象の鼻パーク（横浜みなとみらい21地区）

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会

（文責 柳田）

アフリカ、アジア、中南米など世界各地に関わる団体が出展したこのフェスタ。バオバブの会は“世界の食ゾーン”にて料理、お菓子、お茶を販売しました。メニューはマスタードとレモンの利いたチキンの煮込み“ヤッサ”、トマトとピーナツペーストたっぷりのビーフの煮込み“マフェ”、セネガルの丸っこいドーナツ“ベニエ”、そして甘いミントティー“アッターヤ”です。

横浜の定番散歩コースからはちょっと外れる場所にも関わらず、初日は多くの来場者でにぎわいました。家族連れはもちろん、犬を連れてきた人々や、ウサギを抱っこしてきた人まで！ 用意した料理もお菓子も、フェスタ終了時刻を待たずに完売。とくにベニエはディウフ家の長男M君の話術により飛ぶように売れ、お客さんからは「サンターアントギーよりおいしい」とのおほめの言葉もいただきました。

20日は雨の中でスタートはしたものの、昼前に中止となりました。

★★★ 『セネガル物語 Vol.5』 <http://www7a.biglobe.ne.jp/~africulture/> 出展 ★★★

日時：2013年11月23日（土）11:40～16:30 場所：神奈川公会堂 主催：アフリカルチャー

（文責 柳田）

音楽やダンスを通してセネガルの文化を伝えようという恒例の『セネガル物語』に、バオバブの会はパネルディスカッションとケバサックや絵本等の物販で参加しました。

午前中に太鼓とダンスのワークショップが行われたあと、ディウフ会長は3つの参加団体のかたがたとともにパネルディスカッションに参加。ほかの参加者は、マリの音楽やアートを日本に伝えると同時に現地の経済活動もサポートしている“Harmony for Peace”、西アフリカの音楽や絵本読み聞かせなどの活動を行っている“FAN3jr-ファンサバジュニア”、現地でのFGM（女性器切除）廃絶活動を日本からバックアップしている“WAAF”。1時間という短い間でしたが、紛争中のマリの様子なども伝えられました。

14:30からはこの日のメインイベント、コンサートの始まり。ロビーの片隅から太鼓の音が聞こえ、近づいてきます。ロビーにはまだセネガルご飯を食べたり買い物をしたりしているお客さんたちがいて、さなが

ら市場に突然現れた太鼓隊のよう。赤いモジャモジャの“なまはげ”風のオバケ（に見えて実は守り神！）“カンコラン”も踊りながら加わり、ホールへと入って行きました。

くるくる回ったり跳ねたりしながら、カンコランと太鼓グループ“アニチェ”は客席の間を練り歩き、ステージへ。と、一気に静かな音楽に変わり、ディウフ会長の歌が始まりました。「相撲を取ってくださいよ。ダラダラするのはやめて相撲を…」と、男たちに歌いかけつつ相撲の男らしさを讃えるもので、『Khar Mbaye Madiaga』という有名な歌だそうです。

アニチェの演奏のあとは、オマール・ゲンデファルさんが登場。もともと他の太鼓以上に大きくて強い音が出るジェンベですが、オマールさんの演奏はとりわけ力強く、アフリカルチャーのダンスチームとの掛け合いも息がぴったり。今回はステージと客席の間を広く取っており、おとなしく座っていられなくなったお客さんたちも次々と躍り出てきました。いつまでも果てしなくリズムが続き、いつ終わるのかわからない、そんな感覚に陥るのもアフリカの伝統音楽のひとつの魅力ですが、残念ながらここは公会堂。熱気のうちに終了しました。

コンサート等の収益の一部は、バオバブの会を通じてセネガルの教育支援に充てられます。

★★★ ディウフ会長の学校訪問 ★★★

ディウフ会長は、10月1日（火）の午前中、伊勢原市の桜台小学校を訪問しました。4年生の2クラスの子どもたちに、セネガルと人々の暮らし、子どもたちと学校の状況を、クイズやオリジナル紙芝居『みんなつながってる』、また映像を使って紹介しました。最後に、セネガルの社会では＜あいさつ＞が非常に重要視されているが、＜あいさつ＞は、日本の中ではもちろん、世界のどこにいても、まわりの人々との良い関係を築くための第一歩なので、今から、毎日、気持ちの良い＜あいさつ＞ができるよう、心がけていきましょう、と呼びかけました。

桜台小学校の子どもたちからは、後日、たくさんの写真と感想文で埋まった色紙が届けられました。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第11回『悲観対楽観 ふたりの青年の会話』 下

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ （訳・文責 水野）

いところ同士、ふたりの会話は、ますます熱を帯びてきました。

青年1 確かにアフリカの指導者の悪行には、欧米側にも責任がある。だが、もっと現実を見よう。欧米の人々が、独立以来、ぼくたちに貸してくれた何十億ドルもの金は、いったいどこへ行ったのだ。アジアやラテン・アメリカの国々は、ぼくたちより少ししか借りていないのに、ぼくたちよりはるか先まで発展の道を歩んでいる。

青年2 アフリカはやつらから何も借りていない。

青年1 おまえは間違っている。彼らはぼくたちに支援金を贈ってくれさえした。なかなか借金を返せないのを見て、返済を免除してくれたこともあった。そんなことをしてもらうべきではなかったのに。セネガルのウォロフの人々が「何かをくれる人は、お前を試しているのだ」（1）と言うのだから。

青年2 お前ってさ、本当にばかだな。頭はからっぽだ。お前は、南と北の政治ゲームのことを、なーんに

もわかっていない。ばかだよ！ お前と話し合っても無駄だ。しかし、それでも、お前を無知の中に捨て置くことはできない。「**有知の者は、無知の者を聞かす義務がある**」という言葉、コーランか聖書のどこかで読んだことがある。だから、ぼくはお前に教えてやらなければならない。いいか、第一に、やつらの富は、もともと、ぼくたちから略奪した財産と資源で築かれたものだ。だから、サンカラが殺される前に言ったように、やつらからの借金など返済する必要はない。第二に、借款の条件は、彼らだけに有利なものにすぎない。ぼくらをずーっと借金が必要な状態においておくほうがいい。ぼくらは永遠に払い続けなければならないから。まさに「**肉を見て微笑む歯が、肉を食べる**」(2)さ。やつらはぼくらに善意やヒューマニズムで貸すのではない。それは、搾取を続けることの変装に過ぎない。

青年1 彼らはぼくらに善意を示す義務はないよ。事業の中では、利益を追求することは当然だ。彼らは彼らの権利でやっている。おじさんも言った。「**悪用されても仕方がない。もし被害者が大人で、承知したやったことならば**」ってね。

青年2 そう、お父さんは確かにそう言っていた。詐欺の被害者に対してね。「**それは当然の報いだ。お前は考えが足りなかった**」ともね。だが、そういうとき、いつも、ぼくはお父さんに訊きたいと思った。「それなら、<正直さ>っていったい何？」ってね。だが、ぼくは、たとえお父さんがまだ生きていたとしても、あえて訊かないだろう。お父さんが話しているときは、みじろぎするのも怖かったから(3)。だけど、やっぱり、騙す人間のほうが悪い。世界中のどこでも、彼らは<不正直もの>と呼ばれるさ。それから、第三に、借款は、アフリカ側がすすんで受け入れたものではない。セネガルのトゥクロールの人々の言う、「**にわとりは、市場へ行くのを断ることができない**」じゃないか。

青年1 話をそらしてるよ。アフリカ側ばかりを正当化するのはやめるんだ。それに、欧米から借りたりもらったりした何百万もの金は、いったいどこへ消えたんだ？

青年2 確かに、莫大な金が、アフリカ人指導者が豪邸や個人持ちのホテルや飛行機を買うのに使われた。もちろん、一般市民は彼らを非難したさ。告訴もした。結果が出ずに終わったけれど。抗議行動は流血の中で鎮圧された。そういえば、あのとき、臆病なお前は道路に下りようとしなかったな。。セネガルのウォロフの人々が「**太陽の行くてを阻むことはできない**」とか「**足を引っ張られた人は、行く道を選べない**」と言ったり、カメルーンのブルの人々が「**拳は、石に向かって何ができる？**」と言うように、権力に逆らうことは簡単じゃない。けれども、不可能ではない。そして、嬉しいことに、状況は大きく変わってきた。

青年1 どう変わったんだ？

青年2 第一に、こういった独裁者は少なくなった。一方、選挙で民主的に選ばれた指導者が増えている。さっき、マリのニュースを聞いただろう？ 去年は、セネガルでも新大統領が誕生した。第二に、この10年間で経済的に大発展した国10のうち、6ヶ国がアフリカの国だよ(4)。第三に、また経済成長だが、アフリカの5ヶ国は2012年には中国を超えた。2021年にはインドを超えるだろう(4)。第四には、少なくともこの30年間に、アフリカの人口は60%増加した(4)。想像しろよ。何が、これらの、創造力に溢れ、成功を目指して働く、若い世代を生み出したのかを。

青年1 お前は改ざんされた報道(5)を信じて自慢している。

青年2 いや違う。これらはみんな確かな情報だよ。それに、TICAD5(2013年6月横浜)で明らかになった大きな変化は、<アフリカとの共同>、<アフリカとのパートナーシップ>という言葉が、<アフリカ支援>という言葉にとって代わった、ということさ。お前に保証する。巨人は、今、立ち上がろうとしているのだ。ヨーロッパもアメリカも、このアフリカの変化を認めている。だからこそ、たとえば、セネガルの新大統領に協力して、前の政権のやつらが隠匿した金を取り戻すことを始めたのだ(6)。これは初めの一

歩に過ぎない。これから、あちこちで、たくさんの方の訴えが出てくることだろう。何世代もの間、引き出しの中にしまわれていたものが（7）。

青年1 お前のような単純な夢想家がいたのでは、アフリカはまだまだ発展できないだろうね。ぼくらの課題は、お前が考えているよりもたくさんあるよ。ぼくらの親やそのまた親の世代は＜ヨーロッパのムチ＞に服従していたが、アフリカの人口の60%のぼくら若い世代は、＜中国のアメ＞を食べ、経済的にも文化的にも知らぬ間にとりこまれ、高い確率で＜アジア的アフリカ人＞になりつつある。そして、そのぼくらは、経済の挑戦に加えて、環境への挑戦をしなければならない。砂漠問題ひとつをとっても、ほおっておいたら、近い将来、サハラ砂漠とカラハラ砂漠がアフリカ大陸全体を覆い尽くしてしまうだろう。この問題を考えたから、ぼくは地学を研究することにしたんだ。それで、ぼくは試験をしにくるわけにはいかないから、もう授業に行くよ！ また今夜話そう！

青年2 偉そうなことを言っていて、卒業したとたん欧米系の会社にすべりこんで、やつらに脳みそをしぼり盗られないようにしなよ。そのときこそ、お前の郷土愛、アフリカ愛を証明する過酷な試験に、お前が立ち向かわなければならないときだよ！

- (1) もらいっぱなしではいけない、少なくとも同じものを返す必要がある、そうでなければ、相手と対等になれず、軽蔑される、という意味。
- (2) カメルーンのエウォンドの人々のことわざ。偽善者は、親切な見かけの裏に悪意を隠している、という意味。
- (3) 多くのアフリカ人家族の中では、良きにつけ悪きにつけ、「お父さん」の権威は健在です。
- (4) ザンビア出身で、2009年には米紙タイムの「世界で最も影響力のある100人」にも選ばれた、女性エコノミスト、Dambisa Moyo ダンビサ・モヨの著作 *L' Aide Fatal* 邦題『援助じゃアフリカは発展しない』小浜裕久訳 東洋経済新報社 2010年 より
- (5) 確かに、いくつかの国では、政府がマス・メディアを買収して、虚偽の報道を行わせています。
- (6) 前セネガル大統領の息子 Karime Wade カリム・ワッドは、現在、監視下に置かれ、彼が外国の銀行に隠し持っている何十億もの大金の出所を追求されています。
- (7) ガボンの前大統領である故 Omar Bongo オマール・ボンゴと彼の息子で現大統領の Ali Bongo アリー・ボンゴは、彼らの取り巻きと共に、彼らがフランス、スイス、アメリカ他の銀行に預けてある金融資産と、世界中に持っている不動産について、公金横領とマネー・ロンダリングの疑いがあるとして、フランスの裁判所に告訴されています。

♥ ♥ ♥ 会員募集 ♥ ♥ ♥

バオバブの会は、常時、会員として活動して下さる方を募集しています。

入会を希望される方、また、活動に関心をおもちの方は、下記までお問い合わせください。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP: <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215